

平成20年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	職業教育におけるキャリアカウンセリングプログラムの開発		
法人名	学校法人 宮崎総合学院		
学校名	大原簿記公務員専門学校		
代表者	理事長 川越宏樹	担当者 連絡先	植松修一 0985-22-0658

1. 事業の概要

今回の事業においては、若者が離職という場面に直面した場合においても、早期に次の職業に就けるためのエンプロイABILITYを、専門学校在学中におけるキャリアカウンセリングをベースとした職業教育の実践の中で確立していくことが大切であるとの前提の下、専門学校の職業教育機関としての教育機能を活用することにより、社会人としての基礎力を向上させ、適正な職業観の醸成を目的としたキャリア支援プログラムの開発を企図した。

具体的には、専門学校の教育現場において、学生指導(法律上あるいは行政上の呼称は生徒であるが、高等教育機関の在籍者ということで、あえて学生の語を使用)の最前線で、日々の教育指導に携わっている教職員にとって、キャリアカウンセリングにおける指導のスキルの差違にとらわれず、一定レベルの教育効果が期待できるような内容のキャリアカウンセリングプログラム(30講座)について、指導マニュアルの標準化といった観点に立って開発を行った。

2. 事業の評価に関する項目

① 目的・重点事項の達成状況

卒業後早期の離職率が高いという現状は、単なる就業に関するミスマッチにとどまらず、社会人としてのコミュニケーション能力の欠如からくる職業適応能力の点での問題点が窺える。こうした状況を改善するために、専門学校の有する職業教育機能を活用することにより、社会人としての基礎力を向上させ、適正な職業観の醸成を目的としたキャリア支援プログラムの開発が課題であり、こうした観点から今回のキャリアカウンセリングプログラムを開発した。

② 事業により得られた成果

今回の事業においては、早期離職に至った専門学校を卒業した若者が、可及的速やかに次の職業に就けるためのエンプロイABILITYを、専門学校在学中におけるキャリアカウンセリングをベースとした職業教育の実践の中で確立させるということを前提としており、これにより、社会人としての基礎力を向上させ、適正な職業観の醸成を目的としたキャリア支援プログラムの開発を行うことができた。

③ 今後の活用

今回、開発したプログラムは、成果報告会においても参加者から概ね好評を頂くことができ、参観された学校からキャリア教育に関する指導用教材として複数部数の申し込みがあったので、実施委員の所属する専門学校と併せ、実践的教育の効果が見込まれる。

④次年度以降における課題・展開

③でも述べたように、今回の事業において開発したプログラムは、成果報告会を参観された専門学校等による実践的な検証作業が実施されていくであろうし、こうした展開を経て、問題提起を含めた今後の更なる教育効果が期待できるものと思われる。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

今回の事業を実施するにあたり、専門学校におけるキャリア教育をとりまく状況を把握するとともに、キャリアカウンセリングプログラム作成の参考とするため、まず、アンケート調査を実施した。

アンケートの内容については、

①専門学校におけるキャリア教育の現状調査、

②専門学校におけるキャリア教育に関する専門学校の学生、教職員、保護者の意識調査、

③専門学校の卒業生及び卒業生を受け入れている企業における人事担当者の専門学校教育におけるキャリア形成に関する意識調査、

を骨子とした。
調査の概要については、調査対象を、専門学校生、専門学校の教職員、専門学校生の保護者、専門学校の卒業生(社会人)、専門学校卒業生の就職先企業(人事担当者)の5者とし、調査地域としては、実施委員の所属する専門学校の所在する県を中心に、千葉県、群馬県、富山県、大分県、鹿児島県、宮崎県で実施し、回収実績としては、総数4,970通の調査票を配付し、1,913通の有効回答を得た。回収率は38.5%であった。

また、アンケート調査と並んで、その前提となる実態調査を行った。調査先としては、事業の趣旨に沿うべく、先進的なキャリア教育への取り組みを実践している大学及び専門学校とし、各委員による情報等を総合した結果、以下の3校を視察先に選定し実施した。具体的には、武蔵野大学(東京都西東京市)、専門学校・日本ホテルスクール(東京都中野区)、さらに地方の実態の把握という観点から、明日香美容文化専門学校(大分県大分市)を視察訪問し、キャリアカウンセリングプログラムの開発に資するための情報収集及び意見交換を行った。

②カリキュラムの開発

本事業の最終目的は、適正な職業観の醸成を目途とするキャリア支援のためのキャリアカウンセリングプログラムの開発であるが、このプログラムの開発自体が、そのままカリキュラムに展開できる方向性を持った内容でもある。

従って、今回開発した、キャリアカウンセリングにおける指導のスキルの差違にとらわれずに、日々の教育指導に携わっている一般の教職員でも、一定レベルの教育効果が期待できるような内容の支援プログラム(30講座)は、キャリア教育の現場において、即実践可能なカリキュラム体系となっている。

③実証講座

キャリアカウンセリングプログラムの有効性を検証するとともに、問題点を把握しフィードバックさせることにより、30講座のキャリアカウンセリングプログラムの精度をより高めることを目的として、作成段階にあるプログラムの一部を用いた実証講座を実施した。

内容的には、宮崎会場(大原簿記公務員専門学校)と富山会場(富山情報ビジネス専門学校)で実施した、2回にわたるキャリアカウンセリングにおいて醸成された教職員及び学生とのラポール形成を軸に、

① キャリアカウンセラーによる模範講義

② 専門学校教員による、教職員(就職指導担当者を含む)を対象とした模擬講義

③ 専門学校教員による、学生を対象とした模擬講義

というパターンで実施した。

具体的には、①については今回のプロジェクトの実施委員でもある2名のキャリアカウンセラーが対応し、②及び③については模擬講義を担当していただく先生方に対し、事前に関発途中の30講座のキャリアカウンセリングプログラムを示した上で、希望のテーマを選択してもらうという方法をとった。

④その他

今回の事業においては、専門学校教育の現場において、就業意欲の促進、社会人としての能力の養成、適正な職業観の醸成という観点からの職業教育に資するために、以下のような一連の流れに沿ったプログラム項目を軸に展開した。①自己認識(自己分析、身体や精神の健康の理解)、②教育的、職業的探求(教育の達成度と職業、就業スキル)、③キャリアプランニングのプロセスの理解(意思決定スキル、社会の変化への適応スキル)、④企業が求める社会人としての資質の育成。

具体的には①では、学生自身が自己効力感を持ち、その後の人生を積極的に挑戦し、自ら考え、行動できるように自己分析を進め、身体や精神の健康を保つ方法、効果的な対人スキルまで学ぶ(心の健康づくりのためにセルフケアの方法を学ぶメンタルヘルスの基礎知識、職業興味、価値観等各種シート)、②では、「生きがい」「働きがい」を考えることにより、「働く意義」まで発展させ、職業観の醸成に結びつけ、入社時のミスマッチを防止し、また円滑な就業生活を送るために必要な「職業意識」を持たせることにより、職業の実態や経済活動の理解不足からくる就職意欲の低さを解消する、③では職業選択のプロセス、チェックシート・ワークシートを用いた目標設定、社会変化への適応能力をつけるために企業組織の仕組みを学ぶ、④では傾聴訓練・アサーティブの学習を取り入れたコミュニケーション能力、ビジネスマナー、仕事の遂行能力(ホウレンソウ等)、積極的なチャレンジ精神を育成する、というテーマを掲げて展開した。

特に、コミュニケーションのスキルアップには力を注ぎ、早期離職の要因でもある人間関係の悪化を防止し、仕事が円滑に進み、現在のように多様な価値観の集団、激動する社会の変化の中でも、心身の健康を害することなく、働くことができるようにする、という目標達成に留意した支援プログラム構成を心がけた。

最終的には実証講座による検証作業を経て、職業人生に必要な知識と考え方をベースとした職業人意識を育み、若年者の職業能力を向上させ、社会人としての基礎力を育成する支援プログラムの開発という観点から、専門学校教育現場において、学生指導の最前線で、日々の教育指導に携わっている教職員にとって、キャリアカウンセリングにおける指導のスキルの差違にとらわれず、一定レベルの教育効果が期待できるような内容のキャリアカウンセリングプログラム(30講座)について、指導マニュアルの標準化といった視点に立って開発した。

今回、開発したプログラムは、成果報告会においても参加者から概ね好評を頂くことができたので、今後の実践的な展開を経て、各専門学校における更なる教育効果を期待する次第である。